

このしおりは、紙面の関係で昆虫の種類を絞って作成していますが、これ以外にも寝屋川公園には多くの昆虫がすんでいます。ハチやアブ、毛虫など近寄ったり、触ったりすると危険な昆虫もいますので、注意が必要です。昆虫観察の服装は長そで、長ズボン、靴下、ぼうし、運動靴が基本です。もし、珍しい虫を見つけたら、管理事務所にご一報ください。

※名前の前の記号は、観察の参考として、寝屋川公園内では下記の記載としています。

◎：普通に見られる
○：やや見つけにくい
△：あまり見られない

作成・著作
一般財団法人大阪府公園協会
寝屋川公園・自然の会



昆虫に出会えるポイント

◎カフトムシ

撮影：8月14日
場所：陸上競技場北

越冬態：幼虫
コガネムシ科



夏になると、寝屋川公園のクヌギやコナラの樹液にはたくさんのカフトムシがやってきます。カフトムシのオスの角は、ほかのオスと木の上で出合っつてけんかをするときに使います。角を相手のお腹の下に入れて、すくい上げるように投げ飛ばします。

△ノキギリクワガタ

撮影：9月1日
場所：ケヤキ通り

越冬態：成虫、幼虫
クワガタムシ科



大アゴの内がわの歯がのこぎり状になっていきます。卵から成虫になるまで2年から3年かかります。

◎キヌダラカメムシ

撮影：8月23日
場所：中央広場

越冬態：成虫
カメムシ科



大きな木の幹でよく見かけます。もともとは暖地性のカメムシで、温暖化のせいにか、寝屋川市でも頻繁に見かけるようになった。

◎カナブン

撮影：8月15日
撮影：憩いの広場

越冬態：幼虫
コガネムシ科



メタリツクに輝くコガネムシ。口にはブラシ状の毛が密集していて樹液を取り込みやすい構造になっている。幼虫は朽ち木を食べて育つ。日中に樹液を求めて飛ぶ。

◎シラホシハナムグリ

撮影：11月7日
場所：花の道

越冬態：幼虫
コガネムシ科



アラカシやクヌギの樹液にたくさん集まる。

△ヒラズゲンセイ

撮影：6月13日
場所：苗圃付近

ツチハナムシヨウ科



幼虫はキムネクヌギなどの巣に寄生する。そのため寺社や民家でも発生することがある。1990年代から、今まで見られた近畿や中国地方での発生が確認されるようになった。写真は2016年でおそらく寝屋川市では初めての確認。

◎イボバツタ

撮影：9月11日
場所：芝生広場

越冬態：卵
バツタ科



芝生広場や南地区草の広場などの土が出ているところによく見かけます。背中にイボ状の突起が2つあります。

◎マダラバツタ

撮影：9月11日
場所：芝生広場

越冬態：卵
バツタ科



後ろ脚のすねの部分に赤・青・黒のまだら模様になっています。芝生のある場所によく見かけます。

◎シヨウリヨウバツタ

撮影：9月11日
場所：芝生広場

越冬態：卵
バツタ科



日本のバツタの中では最大のバツタです。斜めに尖った頭が特徴的です。オスはメスに比べると極端に小さいです。オスは飛ぶときに「キチキチキチ」と音を出します。芝生広場などでオスのほうをたくさん見かけます。

◎ウスイロササキリ

撮影：9月11日
場所：芝生広場

越冬態：卵
キリギリス科



ササキリの中では最もよく見かける種です。秋に芝生の中を歩くとき一面に飛び出すのは、その多くがこのササキリです。

○クビキリギス

撮影：1月9日
場所：竹林

越冬態：成虫
キリギリス科



大アゴが朱色で、頭の先が鋭くどがっています。口の周りが赤いので俗称「血吸いバツタ」と呼ばれることもあります。体色は終齢幼虫の時代に育った環境の湿度によって変わります。湿度の高い環境の場合は緑色になり、乾燥した環境の場合は褐色になります。

○ヒメダマキモビキ

撮影：11月10日
場所：花の道

越冬態：卵
ツユムシ科



もともと海岸付近の広葉樹のあるところにいましたが、最近では都市の公園でもよく見かけるようになりまし。花の道や五月映えの丘などの低木の葉の上で見かけます。

◎オオカマキリ

撮影：トリムコース
場所：園内各所

越冬態：卵
カマキリ科



林縁の草の中や樹上にいます。芝生などの開けた場所にはあまりいません。大きな鎌状の前脚で動くものは何でも捕まえて食べます。

◎ヤブキリ

撮影：8月1日
場所：トリムコース

越冬態：卵
キリギリス科



主に樹上で生活しますが、幼虫時代はタンポポなどの花の上にいることが多いです。